

第 2 回

# CAF賞

CONTEMPORARY  
ART  
FOUNDATION

現代芸術振興財団

2 0 1 5

ART AWARD

この度は、現代アートコレクターである前澤友作氏によって設立された、公益財団法人 現代芸術振興財団が主催する、「第2回 CAF 賞 作品展」にご来臨賜りまして、誠にありがとうございます。

本財団は、現代芸術に関する知識と教養の向上を図るため、現代アートの展覧会開催を通じ、また若手芸術家及び若手音楽家の技能の向上のために助成金拠出を行うことで、現代芸術の振興に寄与することを目的としております。

新しい才能の発掘にご協力いただける専門家の方々のご協力のもと、ご応募いただきました学生の皆様やご家族、またそのご友人の方々にとりまして、本展覧会がこれからの活躍の原動力になればと、微力ではございますが尽力させていただき次第でございます。

これからの日本を担う若い世代・若い才能のために、今後とも前澤友作氏の活動に是非ともご協力を頂ければ、幸甚に存じます。

公益財団法人 現代芸術振興財団

CAF 賞<sup>(※)</sup>は全国の美術系高校、大学、大学院、専門学校の学生の皆様を対象とした、若手アーティスト育成を目的とする、現代芸術作品のアートアワードでございます。

第二回目となる今年も、現在ご活躍中のアーティストや美術館研究員の方々などを審査員にお迎えし、最優秀賞 1 名・優秀賞 2 名・審査員特別賞 4 名の合計 7 名の学生を選出させていただきました。

また、今年より最優秀賞を受賞された学生には海外留学渡航費用を拠出させていただきます。若い才能を持った学生が、直接海外のアーティストと一緒に活動することで大いに刺激を受けていただき、その経験を帰国後の創作活動に存分に生かしていただきたいと考えております。

※ CAFとは、“Contemporary Art Foundation”の略称であります。



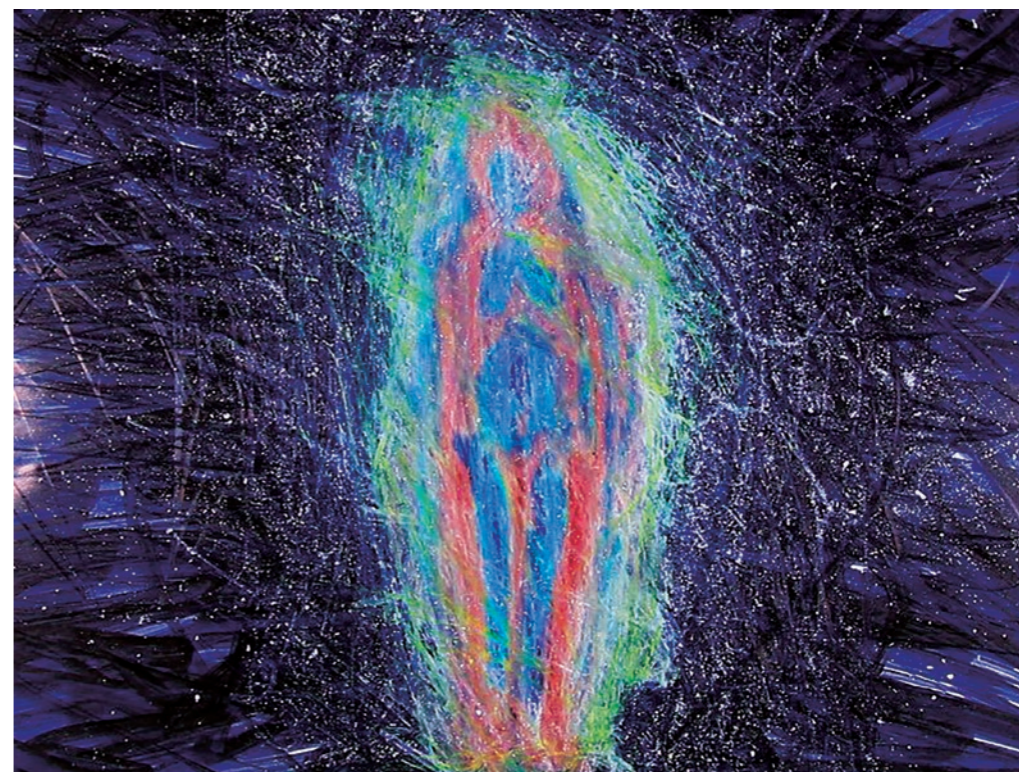
前澤 友作  
YUSAKU MAEZAWA  
生年月日 1975年11月22日  
出身地 千葉県

1975年千葉県生まれ。早稲田実業学校卒業後、バンド活動の一環で渡米。帰国後、1998年に輸入CD・レコードのカタログ販売を手がける有限会社スタート・トゥデイを立ち上げる。2004年、ファッションを中心としたインターネットショッピングサイト「ZOZOTOWN」を開設。2012年、2月に東証一部上場(3092)。

同年11月に現代芸術振興財団を設立。現代芸術を中心としたアートコレクターであるとともに、若手アーティストの支援に力を注いでいる。

# CAF賞

CONTEMPORARY ART FOUNDATION  
ART AWARD



## 最優秀賞

ジダーノワ アリーナ Zhdanova Alina  
京都造形芸術大学

## Фаворитка (Favoritka)

2014  
5分31秒  
アニメーション、ミクストメディア

ひとつの限りない記憶の線をたどっていく。



優秀賞

村井 祐希 Yuki Murai  
多摩美術大学

**small hill**

2015  
200.0 x 200.0 x 10.0 cm  
油彩、石、セメント、キャンバス

捨てられていた絵を拾い、その上に震災で出た瓦礫などが置かれた廃材置き場の風景を描いた。



優秀賞

吉田 実穂 Miho Yoshida  
多摩美術大学

**あってないようなものだから**

2014  
45.0 x 35.0 x 96.0 cm (each)  
和紙に鉛筆、糸、木材

蓄積することで可視化されるもの、生活や日常の中に作品があると私は考えています。ドローイングは皮膚炎で荒れた箇所・肉体的な精神変化を描きとって、日記で心体的な精神変化を書き留める行為を 2014 年 6 月 1 日から現在まで続けています。たくさんのが充実して、アートがふまえてのりこえることだけがすべてではなくなった今に、私は何を作るのだろうと考えたときに、あってないようなもの、時間や、自分や、あの時の行動や感じたこと、1 度離れるとあいまいになってしまうものを追って、作ろうと考えました。生活

と絵画の境界線にたつような、私的だけれど公的なものを作ろうと考えました。



名和晃平賞

星野 夏来 Natsuki Hoshino  
武蔵野美術大学

**Untitled(2014)**

2014  
130.0 x 162.0 x 5.0 cm  
キャンバス、油絵具、油性スプレー

壊れていること許すということを考えています。  
絵画でも人でも状況でも。  
この作品の壊れたすき間にその場の空気や見ている人の感覚が入り込み、相互に自由なやりとりが生まれることを願って制作をしました。



名和晃平賞

星野 夏来 Natsuki Hoshino  
武蔵野美術大学

**Untitled(2014-12)**

2014  
130.0 x 162.0 x 5.0 cm  
キャンバス、油絵具

「Untitled(2014)」と基本的な考えは同じです。  
本当に大切なことは常にアトリエや美術館の外にあり、自分の作品がそのようなことに気づくささやかな装置になることを考えています。



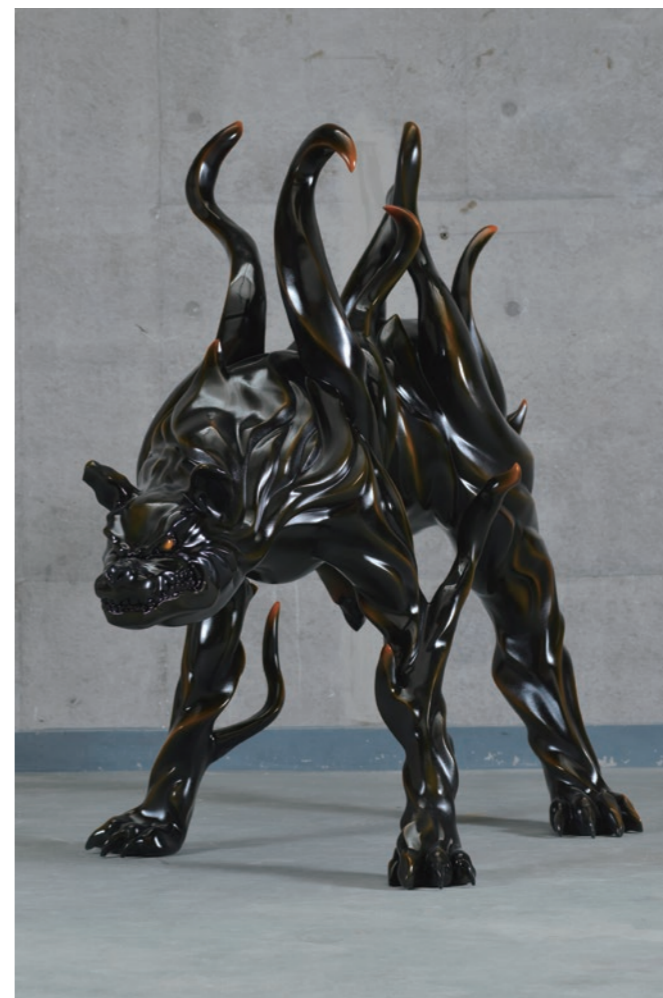
保坂健二郎賞

佐藤 美代 Miyo Sato  
東京藝術大学大学院

### Through the Windows

2014  
3分24秒

女性の見つめるひとつの窓から複数の窓への移ろいが、様々なシーンを回想する。自由自在にメタモルフォーゼする窓の世界は、移動し、拡張し、映し、保管し、時は照らす灯台のような存在となる。絵の具、粘土、切り絵などを用いて制作したアニメーション作品。



岩淵貞哉賞

浅井 拓馬 Takuma Asai  
東京藝術大学大学院

### UNDERDOG

2013  
90.0 x 140.0 x 190.0 cm  
FRP (強化プラスチック)

振り返りながら進みたいというテーマで制作した作品です。日本が近代化を果たす中で忘れてきた八百万の神の意識に代表される感覚を人と自然をつなぐものとかつてされていた獣の形に見立て痛手を負った負け犬（しかし闘志は燃やしている）の姿として作り表してみたものです。また、私個人のスケールで見た場合の現代における人々の状況に対し、どう向き合い生きてゆけばよいかを、その1つのスタンスをシンプルな形として表現したいという意図も込めています。



山口裕美賞

大和 美緒 Mio Yamato  
京都造形芸術大学

### REPETITION RED(dot)

2014  
227.3 x 181.1 x 4.0 cm  
パネルに綿布、油絵の具

キャンパスの左上に、油絵具で赤い点をひとつ置く。次は、その右隣に点を置く。これを繰り返し、点を置きつづける。右端まで到達したら、下方の列にも同じ行為を施す。これを毎日繰り返す。私達の身体と感覚は日々わずかに変化し続けている。その微妙な変化が、キャンパスの上で赤い点の質の違いやズレとなり現れる。絶え間ない揺らぎの連続。その永遠に続く運動と、軌跡のあり方を知覚出来るかたちにしたい。



前澤友作特別賞

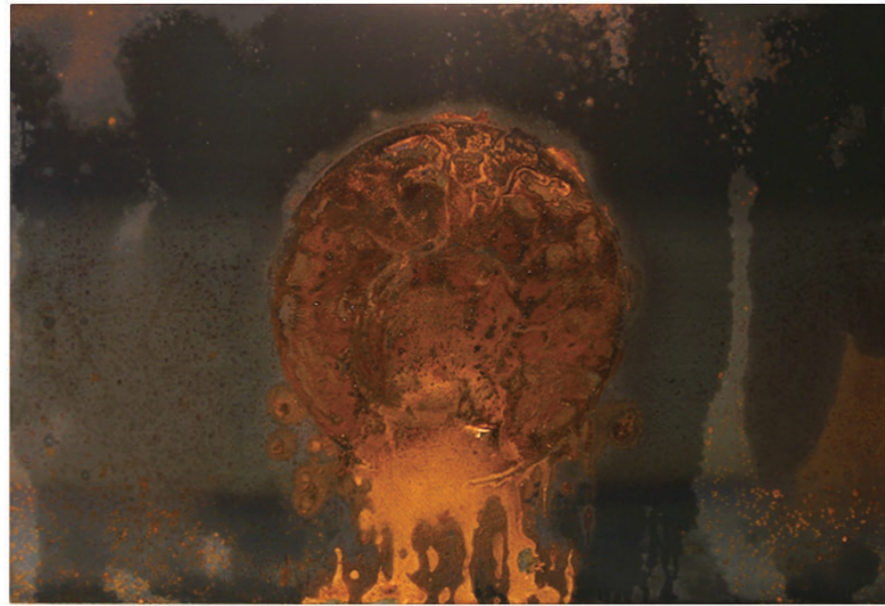
富田 直樹 Naoki Tomita  
東京藝術大学大学院

### NO job

2015  
18.0 x 135.0 cm (total) / 18.0 x 14.0 cm (each)  
油彩、綿布

街にいるフリーターの人達の肖像を描いた作品である。  
モデルは知人や街の中で直接探すのではなく、ファッション雑誌のスナップ等から職業欄にフリーターと書いてある人をチョイスし描いている。フリーターと聞くと一見ネガティブな印象を受けがちだが、私は新しく何かが始まる（または始める）可能性を持った状態として捉えている。人の命で例えるなら、死んでから次に何かに生まれ変わる間の状態にも似ているように思う。私はそのような無や 0 とも呼べるこの状態を描く事で、可能性や希望を表現出来るのではないかと

と考えている。  
またこの作品は一つずつでも肖像画として成立するのだが、複数並べる事で街の風景のように感じさせたいと考えた。

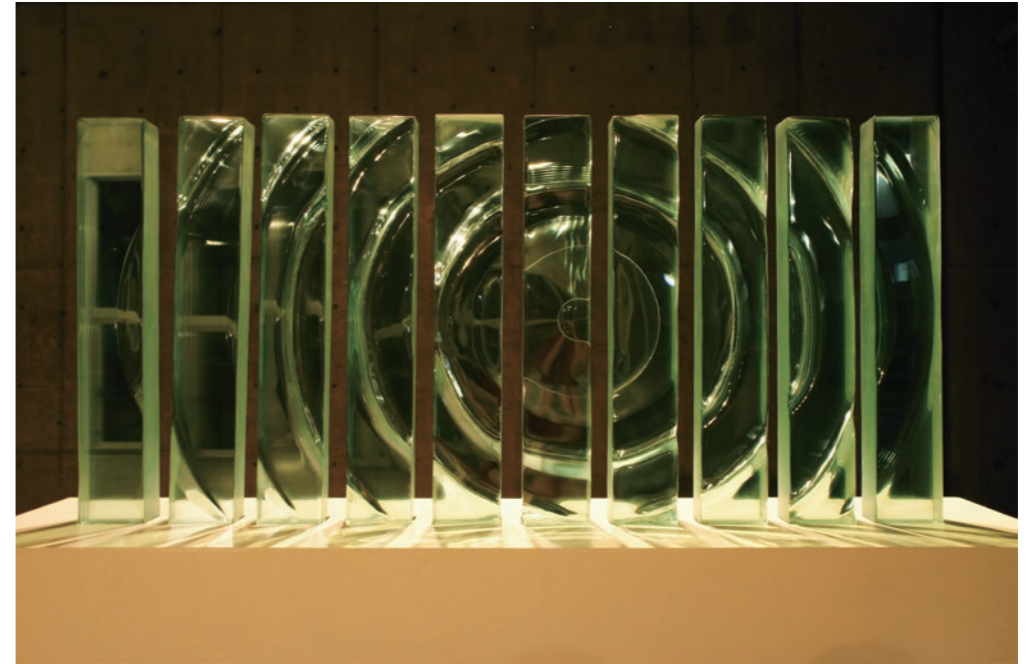


相澤 安嗣志 Atsushi Aizawa  
多摩美術大学

**Effect -日の丸 / hinomaru-**

2014  
70.0 x 105.0 x 5.0 cm  
鉄板、塩化ナトリウム溶液、塩化第二鉄、酢酸

人間は自然の恩恵を受け文明を発展させ、社会を構築してきたが、やがて人間は自然を抑圧し思い通りにしようとすることで地球上で圧倒的捕食者となり、自然と人間の共存関係は破綻しようとしている。地球を創り上げた鉄の錆という現象をこの関係性のメタファーとし、感覚としてのリアリティを血肉のような生々しい素材感で表現した。社会の意識は一点に集中し、やがて拡散する繰り返しである。瞬間的に意識は一つに収束するが、それは不安定で脆く、維持できずに崩れていく。



穴井 麻美 Mami Anai  
多摩美術大学大学院

**水面**

2014  
150.0 x 170.0 x 40.0 cm  
ガラス

透明な素材であるガラスは認知しにくい。反射と映り込みによってそこにあることが分かり、置かれる場所によっても見え方が変わる。映り込む自分の姿、透けて見える向こうの景色、ガラスの中の多重の反射。周りを映すことで存在が認知されるガラスと自身をそのまま見ることはできないが、映ることによって認知できる私。お互いの作用によって存在を確認し合える作品を目指した。





井田 大介 Daisuke Ida  
東京藝術大学大学院

**Security dilemma(2)**

2015  
19.0 x 136.0 x 22.0 cm (上) / 15.0 x 120.0 x 22.0 cm (下)  
エポキシ樹脂、ミクストメディア

安全保障と紛争における安全保証のジレンマを視覚化する。軍事力を持たなければ国のインフラなどにお金を回せて、より国が豊かになるが、相手を信用できないがために軍事力を持つ方を選ぶ。持ちたく無くても、持たなければならないというジレンマ。

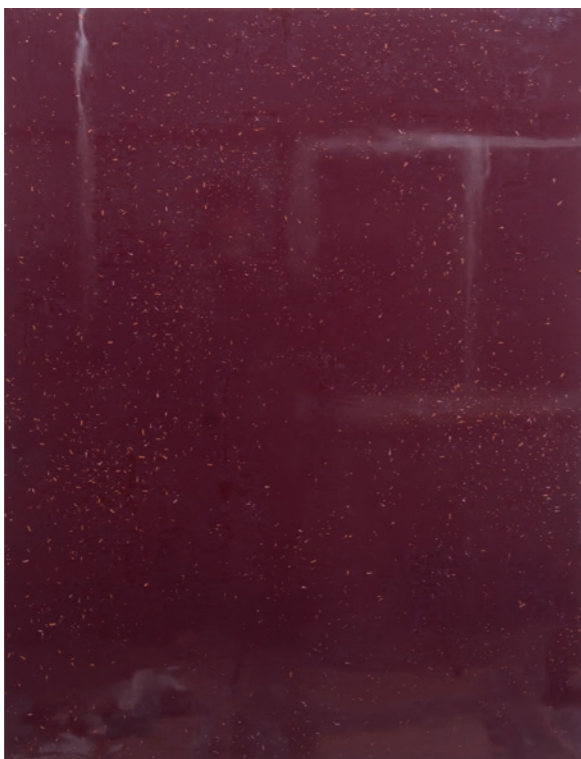


笠井 遥 Haruka Kasai  
京都造形芸術大学大学院

**つれづれ**

2014  
200.0 x 136.6 x 3.0 cm  
パネル、麻布、ポローニヤ石膏、兎膠、岩絵具

つれづれなるままに。  
そしてもの寂しい。  
私は日本人が持つ無常観や死生観といった感性をまっすぐに見つめたい。  
枯れ果てたダリアが線香花火のように見えた。  
夏の終わり、人々は小さくしゃがみ、静かに散る花火を見つめる。  
あやうしこそものぐるほしけれ。



門阪 翔大 Shota Kadosaka  
金沢美術工芸大学大学院

#### Unrelated Relation

2015  
116.7 x 91.0 x 3.0 cm  
アクリル樹脂、顔料

内部と外部に関わり続ける絵が見たい。  
ディスプレイに映る透明性の高い絵を見ていると、絵画作品は観念そのものでもなければ物質そのものでもないことに気づく。私は、絵画のその「半透明性」を楽しみたい。  
空間の中に強度を持って存在し、視線をはね返しながらも環境をとりこむ物質性と両面内部の世界が反復することで、絵画の「半透明性」が生む揺らぎをその空間に与える。画面内部のタッチのひとつひとつはバラバラにとびはねているようでいて実は互いに影響を与え合い、点は線となり、面

となり、やがて理念として全体を構成し、絵画性と彫刻性をあわせ持って空間の中で震え続ける。  
絵は、場との関係に気づくべきである。画家は、絵を空間に開いたものとして、人とのつながり、関係し合うことを求めるべきである。私にとって、絵画は「関わる」ことで浮かび上がってくるものなのである。



川田 龍 Ryo Kawada  
東京造形大学

#### Ducttape

2015  
227.3 x 181.8 x 3.0 cm  
キャンバスに油彩

背景の円状に繋がれた光は、何かの象徴ではなくただのクリスマス用のイルミネーションです。それをシルバーのダクトテープで留めて描きました。



川田 龍 Ryo Kawada  
東京造形大学

**joint 3**

2015  
181.8 x 227.3 x 3.0 cm  
キャンバスに油彩

元麻薬中毒患者の友人にモデルを依頼しました。  
持たせているのはマリファナでも針でもなく”  
白い包み紙”です。

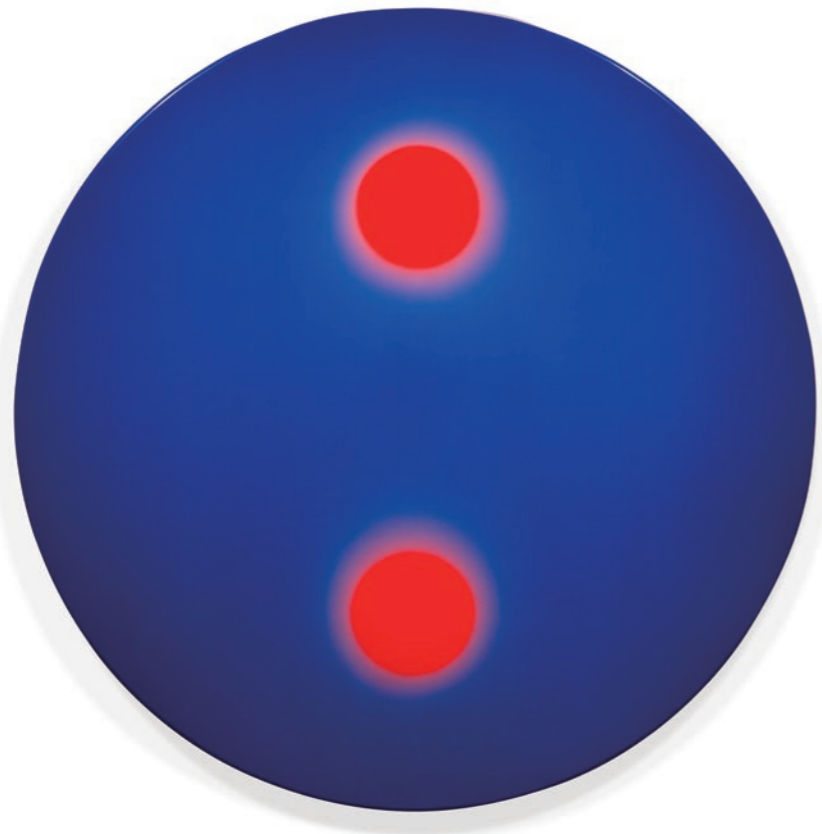


河本 蓮大朗 Rentaro Kawamoto  
横浜美術大学

**No.002 -Meta-**

2015  
110.0 x 200.0 x 2.0 cm  
古布、綿糸、染料

布団やタオルなどの布は温もりや思いやり、何か  
を包み込む温かさを持っているような気がする。  
幼少のころ、寝るときに母にかけてもらった布団  
に、私は母の思いやりを感じた。  
私は布を作ることで皮膚感覚に訴える作品を作り  
たい。それは人間の根本にある安心や愛をテーマ  
にしているからかもしれない。



菊池 遼 Ryo Kikuchi  
東京造形大学

**primary scape #7**  
2015  
180.0 x 180.0 x 5.0 cm  
パネルにアクリル

私は現在「人類への祝福」という事を根底のテーマとして制作・研究を行っています。出品作品である「primary scape#7」は、そのテーマを達成するための基礎的な部分として制作・研究にある。

「primary scape」というシリーズの、卒業制作で展示した内の一点です。「primary scape」は卵細胞分裂と旧約聖書冒頭(神が光りあれと言ひ、天地が分かれ、あらゆる物事が発生していく)をモチーフとして、それを完璧さのメタファーとしての円の中に描くことにより、ものごとの発生す

る瞬間を象徴的に表現しようとしているシリーズです。

卒業制作では五枚のパネルを連続して展示し、それぞれのパネルに卵細胞分裂と旧約聖書冒頭をモチーフとした発生の瞬間のそれぞれのシーンを描写しました。それらが展示会場に入ると一望できることにより、超時間的な視点から発生の瞬間を体験出来る作品を制作しました。



木村 亮佑 Ryosuke Kimura  
倉敷芸術科学大学大学院

**man**  
2015  
193.0 x 101.2 x 37.7 cm  
ボール箱、ペンキ、ラッカー系塗料

人と人をつなぐことにおいて、最も大切なことは対話です。他者と向かい合う中での様々な感情を具現化したイメージとして設定しています。

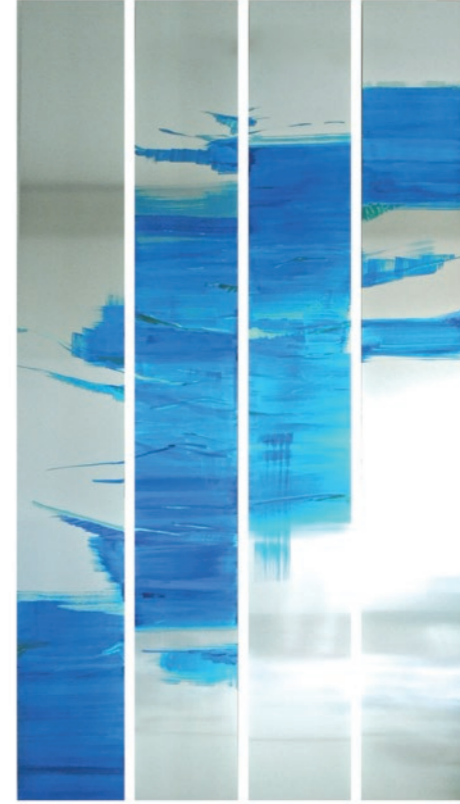


菅澤 薫 Kaoru Sugawara  
筑波大学大学院

### もう一度

2013  
112.0 x 162.0 cm  
石膏地にテンペラ、油彩

現在は近くに存在しないが、まだ傍にいてまわりついているような感触を描きたいと考え取り組みました。愛する存在を失った時、人は何を想い、何を考えるか。そして、そこには何が残るのか。情念や思い出の余韻を感じるような絵にしていきたいと考え制作しました。



杉谷 慧 Kei Sugitani  
多摩美術大学

### シベリア

2015  
190.0 x 108.0 x 4.0 cm  
アルミ板に油彩

シベリア鉄道の車窓から見える風景をモデルにしています。いくら移動手段や情報伝達技術が発展しても、根本には 7 泊 8 日で人を運び、英語もあまり話せない人たちとコミュニケーションする、シベリア鉄道のようなものがまだ残っているということを考え、今回テーマといたしました。素材としては、アルミ板に油彩です。アルミの持つ金属の固さ、横から見たときに見える 2mm 程度のエッジは、シベリアの風景とつながっていくと考えています。



南村 遊 Yu Minamimura  
愛知県立芸術大学

**Soul Eater**

2015  
190.0 x 125.0 x 135.0 cm  
大理石、鉄

人とふれ合うことで生じる、恐怖や苦悩を形として表現した作品です。この形は、長方形に切った画用紙 2 枚を重ね合わせ、端からクシャクシャと丸めこみ、さらに絞め殺したものをモチーフとしたものです。

コミュニケーションによる、恐怖や苦悩のイメージを、一度行為に置き換え、それによって生じた形で、テーマとしていた恐怖や苦悩を表そうとしました。

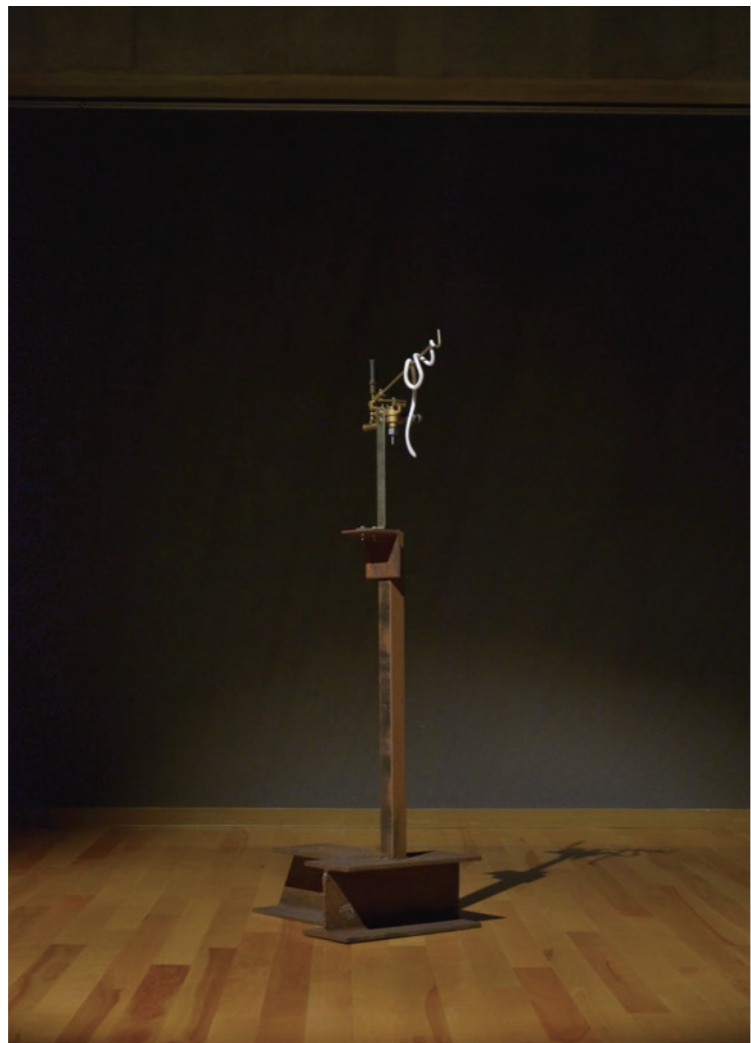


椋本 奈津子 Natsuko Mukumoto  
東京造形大学大学院

**Forest and Window**

2015  
162.0 x 259.0 cm  
キャンバス、油彩

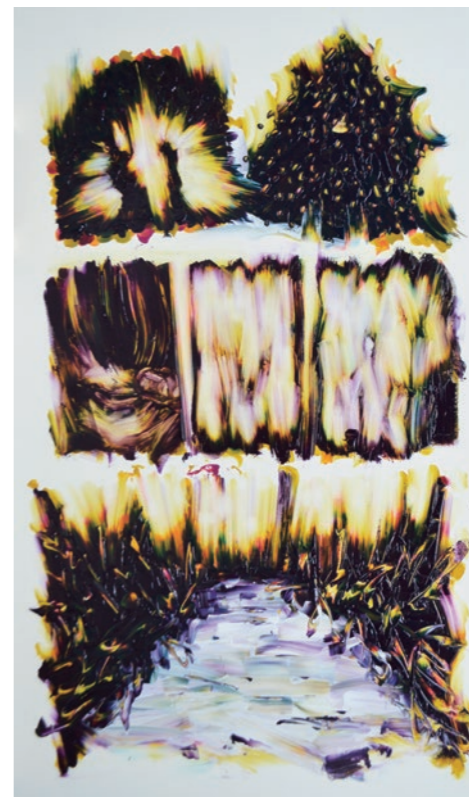
タッチで描かれる表現と線で描かれる表現を同じ画面の中に同時に存在させることによって、片方の表現を見ているときには見えない表現があり、それが繰り返し交互に起きるのではないかと考えた。窓のモチーフは内側と外側を隔てる中間にあるものと考えている。存在における二重性や矛盾を表現したいと思い制作した。



村松 英俊 Hidetoshi Muramatsu  
東北芸術工科大学

**sleep**  
2014  
130.0 x 40.0 x 60.0 cm  
大理石、ガスセーバー

物には記憶が存在すると考えている。特に、人に使われてきた物には、記憶や、人の意識が蓄積していると感じる。物に蓄積した記憶や意識の中から生まれた、物に宿る存在をテーマに制作しました。本作で使用しているガスセーバーは、普段アトリエで使われている物です。



和田 文都 Fumito Wada  
倉敷芸術科学大学大学院

**scene.f15.1**  
2015  
162.0 x 97.0 x 4.0 cm  
キャンバス、水性塗料、油彩

頭に浮かぶ物語のシーン (scene) を表出する術を模索しています。

「退廃した灰色な空間で生活する未成年の物語」という設定で、ラフなコマ割りマンガからドローイングやペインティングに移行しています。

## 最優秀賞

ジダーノワ アリーナ Zhdanova Alina  
京都造形芸術大学

**Фаворитка (Favoritka)**

2014 / 5 分 31 秒

*Movie*

## 優秀賞

村井 祐希 Yuki Murai  
多摩美術大学

**small hill**

2015 / 200.0 x 200.0 x 10.0 cm

*Picture*

## 名和晃平賞

星野 夏来 Natsuki Hoshino  
武蔵野美術大学

**Untitled(2014)**

2014 / 130.0 x 162.0 x 5.0 cm

*Picture, Installation*

## 保坂健二郎賞

佐藤 美代 Miyo Sato  
東京藝術大学大学院

**Through the Windows**

2014 / 3 分 24 秒

*Movie*

## 山口裕美賞

大和 美緒 Mio Yamato  
京都造形芸術大学

**REPETITION RED(dot)**

2014 / 227.3 x 181.1 x 4.0 cm

*Picture*

## 優秀賞

吉田 実穂 Miho Yoshida  
多摩美術大学

**あってないようなものだから**

2014 / 45.0 x 35.0 x 96.0 cm (each)

*Picture, Objet*

## 名和晃平賞

星野 夏来 Natsuki Hoshino  
武蔵野美術大学

**Untitled(2014-12)**

2014 / 130.0 x 162.0 x 5.0 cm

*Picture, Installation*

## 岩淵貞哉賞

浅井 拓馬 Takuma Asai  
東京藝術大学大学院

**UNDERDOG**

2013 / 90.0 x 140.0 x 190.0 cm

*Objet*

## 前澤友作特別賞

富田 直樹 Naoki Tomita  
東京藝術大学大学院

**NO job**

18.0 x 135.0 cm (total)

18.0 x 14.0 cm (each)

*Picture*

相澤 安嗣志 Atsushi Aizawa  
多摩美術大学

**Effect -日の丸 / hinomaru-**

2014 / 70.0 x 105.0 x 5.0 cm

*Picture*

笠井 遥 Haruka Kasai

京都造形芸術大学大学院

**つれづれ**

2014 / 200.0 x 136.6 x 3.0 cm

*Picture*

川田 龍 Ryo Kawada

東京造形大学

**joint 3**

2015 / 181.8 x 227.3 x 3.0 cm

*Picture*

木村 亮佑 Ryosuke Kimura

倉敷芸術科学大学大学院

**man**

2015 / 193.0 x 101.2 x 37.7 cm

*Objet*

南村 遊 Yu Minamimura

愛知県立芸術大学

**Soul Eater**

2015 / 190.0 x 125.0 x 135.0 cm

*Objet*

和田 文都 Fumito Wada

倉敷芸術科学大学大学院

**scene.f15.1**

2015 / 162.0 x 97.0 x 4.0 cm

*Picture*

穴井 麻美 Mami Anai

多摩美術大学大学院

**水面**

2014 / 150.0 x 170.0 x 40.0 cm

*Objet*

門阪 翔大 Shota Kadosaka

金沢美術工芸大学大学院

**Unrelated Relation**

2015 / 116.7 x 91.0 x 3.0 cm

*Picture*

河本 蓮大朗 Rentaro Kawamoto

横浜美術大学

**No.002 -Meta-**

2015 / 110.0 x 200.0 x 2.0 cm

*Picture, Objet*

菅澤 薫 Kaoru Sugasawa

筑波大学大学院

**もう一度**

2013 / 112.0 x 162.0 cm

*Picture*

椋本 奈津子 Natsuko Mukumoto

東京造形大学大学院

**Forest and Window**

2015 / 162.0 x 259.0 cm

*Picture*

井田 大介 Daisuke Ida

東京藝術大学大学院

**Security dilemma(2)**

2015 / 19.0 x 136.0 x 22.0 cm (上)

15.0 x 120.0 x 22.0 cm (下)

*Objet*

川田 龍 Ryo Kawada

東京造形大学

**Ducttape**

2015 / 227.3 x 181.8 x 3.0 cm

*Picture*

菊池 遼 Ryo Kikuchi

東京造形大学

**primary scape #7**

2015 / 180.0 x 180.0 x 5.0 cm

*Picture*

杉谷 慧 Kei Sugitani

多摩美術大学

**シベリア**

2015 / 190.0 x 108.0 x 4.0 cm

*Picture*

村松 英俊 Hidetoshi Muramatsu

東北芸術工科大学

**sleep**

2014 / 130.0 x 40.0 x 60.0 cm

*Objet*





公益財団法人  
現代芸術振興財団